

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1 - 1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 0 4 3 (2 2 3) 3 0 0 5
毎 月 1 日発行
平成 2 7 年 4 月号



園芸産出額全国第 1 位の奪還に向けた 「力強い産地づくり」の推進について

千葉県農林水産部生産振興課
課長 中村 保宏

平成 2 5 年の本県園芸産出額は 2, 0 3 5 億円で、県農業産出額の約半分を占める重要な部門ですが、平成 1 0 年をピークに減少傾向にあり、茨城県と同額の全国 2 位となっています。県では、「千葉県農林水産業振興計画」で掲げた、「園芸産出額全国第 1 位」の奪還に向け、各種施策を積極的に進めてまいります。

1 千葉県農林水産業振興計画について

(1) 産地活性化の促進と戦略的連携による力強い産地づくり

加工・業務需要などの大口需要に対応できる生産・流通体制を構築するため、(公社)千葉県園芸協会を核に関係者が緊密に連携する「オール千葉」体制で、国内外産地に打ち勝てる力強い産地づくりに取り組めます。

- 多様なマーケット需要に対応できる競争力ある産地づくり
- 新品目の導入・輸出等の新たな取組による産地の活性化 など

(2) 高収益型園芸農業への転換

ハウスなどの施設化や省力機械等の導入による規模拡大、梨の改植による生産力向上及び集出荷貯蔵施設の整備による流通体制の強化を支援するとともに、新たな販路の拡大により、高収益型園芸農業への転換を図ります。

- 高品質・安定生産、高収益型園芸農業を目指した施設化の推進
- 露地野菜を中心とした機械化等による経営規模拡大の推進
- 集出荷貯蔵施設の高度化・大型化の推進による産地流通体制の強化 など

2 平成 2 7 年度の主な園芸振興施策について

(1) ちばの園芸産地活性化支援事業 (予算額：25,000 千円)

平成 2 6 年度に設置した 4 つの品目別協議会 (にんじん、トマト、ねぎ、さつまいも) について、(公社)千葉県園芸協会を中心に県、全農千葉県本部などの関係機関が協同して実施する出荷規格の統一などの産地間連携を進めてまいります。また、新たに 3 品目 (だいこん、キャベツ、きゅうり) で協議会を設置し、市場における県産農産物の競争力強化に取り組んでまいります。

(2) 新「輝け！ちばの園芸」産地整備支援事業 (予算額：300,000 千円)

園芸産出額全国第 1 位の奪還を目指して、県内園芸産地の生産力を強化・拡大するため、ハウス等の施設整備や省力化機械等の導入、老朽化した温室等の改修に対して助成します。

(3) 園芸産地競争力強化総合対策事業 (予算額：956,550 千円)

県内園芸産地の競争力を強化するため、国の交付金を活用して生産・流通コストの削減、省力化、高付加価値化などに資する施設・機械の導入に対し助成します。

(4) 園芸施設省エネルギー化推進事業 (予算額：15,000 千円)

施設園芸について、燃油価格の上昇により、生産コストが上昇していることから、生産者が行う省エネルギー機械等の導入に助成します。

第 19 回全国にら生産者千葉大会 五木田丸栄出荷組合に全国から視察

山武農業事務所 改良普及課
上席普及指導員 町田 剛史

全国にら生産者千葉大会が開催されました。2 日目に行われた視察研修会では、山武市の五木田丸栄出荷組合に全国からニラ生産者が集まり、品質の高さに賞嘆の声が上がりました。

1 第 19 回全国にら生産者千葉大会

全国にら生産者大会は、数年ごとに我が国の代表的なニラ産地を会場として、全国のニラ生産者や関係者が情報交換と産地交流を目的に開催されています。第 19 回全国にら生産者千葉大会は平成 27 年 2 月 3 日～4 日に (株) 武蔵野種苗園主催、千葉県、山武市、(公社) 千葉県園芸協会、J A 山武郡市、J A 全農ちばの後援により、307 名が参加して、開催されました。

3 日に勝浦市で行われた本大会では、高知大学の受田副学長から「食品科学から見る『ニラ』の魅力」と題した講演、さらに研究機関等からニラに関する栽培試験結果や品種の紹介がありました。また、視察研修会の開催地である五木田丸栄出荷組合 (山武市) の大津組合長からは、国産ニラ産業の更なる発展を目指す大会宣言が高らかに宣言されました。

4 日の視察研修会は、五木田丸栄出荷組合の 2 戸のハウスで行われました。葉幅が広く、葉色が濃い高品質のニラに賞嘆の声が上がり、品種や施肥方法を問う質問が多く寄せられました。



大津組合長による大会宣言

2 山武地域におけるニラの現状

山武地域は県内最大規模のニラ産地であり、温暖な気象条件を生かして、ハウスや大型トンネルによる周年出荷がほとんどです。内職的作業委託によって多くの雇用を作り出す地域の基幹産業の一つといえますが、雇用労働者の平均年齢は 70 歳ほどと高齢化が進んでおり、新たな労働者の確保が課題となっています。また、個別に販売先を確保できる好立地だったこともあり、現在でも個選出荷者が多いことも

特徴です。組織的な出荷は少数派であり、量販店を中心にロットが求められる販売環境の変化に、産地としての力の強化が求められています。

3 五木田丸栄出荷組合

五木田丸栄出荷組合は、山武地域で最大手のニラ出荷組織です。最大手といっても 10 数戸で小回りが効くことから、顧客要望に即応できる組織として市場から評価されています。分荷や販売は自分たちで行い、毎日、出荷場に集まって情報交換をしているため、販売先・栽培方法・資材といった情報が集まりやすく、共有も自然とできます。

この 5 か年で導入した技術・設備として、新品種、土壌消毒、セル育苗、夏季の遮光、ハウス増設、定植機、結束機等が挙げられ、新技術を積極的に導入しています。さらに、今後 5 か年の導入希望を調査すると、計量結束機、花刈機等の省力化機械に加え、契約販売、コンテナ出荷といった販売方法への希望も挙げられます。雇用労力の確保が難しくなる中、栽培、販売ともに一層の省力化が求められています。

4 おわりに

山武地域のニラ産地が抱えている問題点として、雇用労力の不足や単価の不安定、省力化機械の導入不足等が挙げられます。これらへの対応すべき方向性として、時期ごとの出荷量のばらつき是正、調製作業を中心とした省力化機械の導入、契約販売やコンテナ販売の拡大、ロット補完や真空予冷庫の利用を視野に入れた組織連携等に取り組む必要があります。生産者、関係機関が連携して、山武のニラの産地力強化を図っています。



全国からニラ生産者が視察に



頑張る産地

研修会で成長するカーネーション後継者たち

安房農業事務所改良普及課
上席普及指導員 田中千華

安房地域で売上げ増加を目指して栽培技術の向上に取り組んでいる後継者達について紹介します。彼らは、安房農業事務所が主催する青年農業者等スキルアップ研修「カーネーション研修会」に参加し、知識や技術を吸収するとともに、組織を結成して交流を始めました。

1 はじめに

千葉県のカerneーションの販売金額は 11 億円で全国第 4 位(平成 24 年生産農業所得統計)の産地で、その約 8 割を安房地域が占めています。この内、当地域で後継者が就農している経営体は全体の 2 割程度であり、生産者数は減少してきています。そのため、地区内に同世代のカerneーション生産者がおらず、後継者達が交流する機会がありません。また、安房地域では個人で出荷販売を行う経営体が 9 割以上を占めているため、出荷組織が開催する講習会や圃場巡回等はなく、後継者達が栽培技術を学ぶのは経営主からのみとなり、産地で培われた栽培技術の継承が難しくなっていることが懸念されていました。

2 カーネーション研修会の開催

当事務所では千葉県花き園芸組合連合会カーネーション部会(会員は安房地域のみ 48 名)の後援を受け、「カーネーション研修会」を開催しました。本研修では、後継者が自分自身で考え、近年の時代背景や気象の変化に対応した栽培ができ、安定した出荷量を確保することを目的に、栽培理論を基礎から学ぶ講座を 7 回シリーズで開催しました。講師には、長年にわたりカーネーションの栽培技術を研究された元千葉県農林総合研究センター花き緑化研究室長の『細谷宗令氏』や、切り花の日持ち延長技術の第一人者である『宇田明氏』(現宇田花づくり研究所代表)等各分野の専門家を迎え、知識・経験豊富な講師から後継者が直接学べる講座としました。

研修会を開催した結果、後継者達が定期的集まる機会ができたことにより、後継者間の交

流が始まりました。また、講座に参加しているベテラン生産者との交流や情報交換により、実践的な技術情報を得ることができるようになりました。本研修により、後継者の知識習得に加え、栽培意欲向上につながっていると感じています。

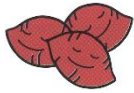
また、本研修会をきっかけに「千葉県カーネーション若手の会」が結成され、地域の若手生産者間の交流が始まりました。若手の会では、他県のカerneーション生産者との交流会やフェイスブック(SNS)を利用した意見交換が始まっています。



圃場巡回で品質向上につながる温度管理について学ぶ後継者達

3 今後の取組

平成 27 年度も本研修会を継続し、この 1 年で伝えきれなかった内容について伝授する予定です。研修会による栽培技術のさらなる向上と後継者間の交流を通じて栽培意欲が向上することで、産地が活性化することが期待されます。当事務所では引き続き後継者達を支援していきます。



しっとり甘い「べにはるか」の栽培法

農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所
畑地利用研究室 主任上席研究員 猪野 誠

サツマイモ品種「べにはるか」の栽培では、収穫時まで草勢を「中」程度に維持すると、デンプン含量が多く、食味の良いいものが生産できます。草勢が弱い圃場の 10a 当たり基肥窒素量は、慣行の 3kg では草勢を維持するためには少なく、6kg が適当です。

1 はじめに

貯蔵後の甘みが強く、しっとりとした肉質の「べにはるか」が本県に導入されて約 5 年が経過しました。産地では、比較的作りやすいことから作付けが急増しています。ここでは、3 か年における産地の栽培事例調査並びに窒素を中心とした施肥試験の結果から、肥培管理の視点で、食味の良いい「べにはるか」の栽培法を紹介します。

2 草勢の違いによる収量及び食味品質

一般にサツマイモの 10 a 当たり施肥窒素量は、基肥のみで成分量 6kg 以下と少なく、この範囲で生産者は前年や前作物の生育状態から圃場ごとの施肥量を加減しています。そこで、ここでは茎葉の生育状態を示す草勢を肥培管理の指標としました。

平成 23 年から 25 年までの 3 か年、香取郡多古町及び成田市大栄地区の「べにはるか」圃場を調査しました。草勢が強い圃場の「べにはるか」は、「つるぼけ」による減収やデンプン含量の減少、貯蔵後の焼きいも甘味度の低下や肉質が軟らかくなりすぎる傾向が見られました。草勢と収量、食味品質との関係は年次により若干異なりますが、草勢「中」の圃場（写真）は、収量、外観品質が安定して優れ、収穫時のデンプン含量が多いことから、貯蔵後の食味が良くなりました（図 1）。

3 窒素肥沃度が低く、草勢が弱い圃場の施肥

吸肥力が強いサツマイモを連作することが多い産地では、窒素肥沃度の低下や施肥窒素量の抑制により、

草勢が弱い圃場が多く見られます。そこで、窒素肥沃度が低い圃場（無機態窒素 1.0mg/乾土 100g）で基肥窒素量 4 水準の試験を行いました。その結果、窒素 3kg、6kg、9kg の収量差はありませんでしたが、貯蔵後の焼きいもの甘味度は、窒素 6kg と 9kg で高くなりました（図 2）。ただし、窒素 9kg の焼きいも肉質は軟らかくなりすぎる傾向を示しました。以上のことから、窒素肥沃度が低い圃場の 10a 当たり基肥窒素量は、慣行の 3kg では少なく、6kg が適しました。

4 おわりに

産地では草勢維持のために自家製堆肥や米ぬか等の施用が多く見られますが、未熟堆肥はいものデンプン蓄積が減少します。したがって、サツマイモ栽培では、完熟堆肥を施用してください。



草勢「中」の圃場

写真 植付け 3 か月後の繁茂状況

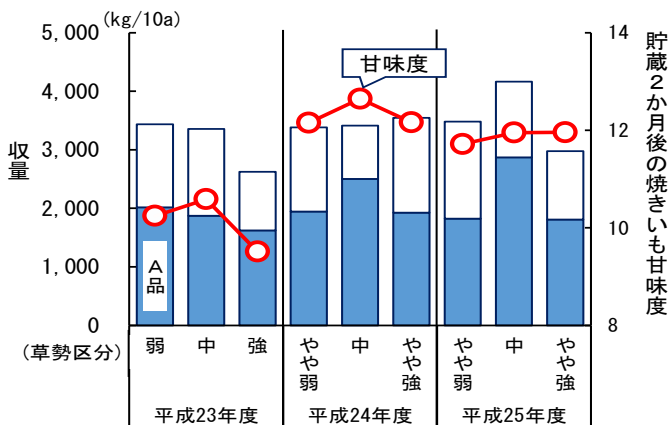


図 1 「べにはるか」現地圃場の草勢区分による収量及び貯蔵 2 か月後の焼きいも甘味度

注) 甘味度 = ショ糖含量 + ブドウ糖含量 × 0.55 + 果糖含量 + 麦芽糖含量 × 0.35

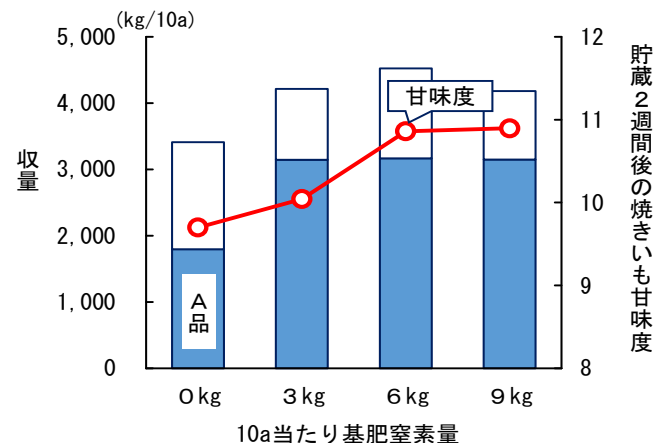


図 2 草勢が弱い圃場における基肥窒素量と「べにはるか」の収量及び貯蔵 2 週間後の焼きいも甘味度

都内の市場でちばの花を PR
～平成 26 年度「ちばの花」市場展示会開催～

流通販売課
首都圏マーケティングセンター

3 月の需要期に向けて出荷最盛期を迎える本県の花を PR するために、1 月 26 日(月)から 30 日(金)まで、東京都中央卸売市場の 3 市場(大田・世田谷・北足立)で、県・全農千葉県本部・千葉県花き園芸組合連合会の共催で「ちばの花」市場展示会を開催しました。

展示会場にはストックやガーベラなど、旬を迎えた「ちばの花」が多数並び、訪れた多くの買参人が、足を止めて見入っていました。

また、競り開始前には関係者と産地で PR 活動を行い、本県産花きの利用を呼びかけました。

最近首都圏では、花き振興法の成立やオリンピック需要への期待を背景に、各産地による PR 活動が盛んに行われています。みなさんも、「消費地に近い産地」の利を活かして、さらなる販売促進活動に取り組んではいかがでしょうか。



大田市場での展示

県産農林水産物の輸出にチャレンジしよう！
～補助事業実施者募集のお知らせ～

流通販売課
販売・輸出促進室

県では、県産農林水産物の輸出促進を図るため、輸出にチャレンジする事業者を支援する「千葉の農林水産物輸出促進事業」を実施します。

下記のとおり事業実施者を募集しますので、海外への販路拡大を目指している団体は、御応募ください。

1 対象団体

市町村、農業協同組合、営農組織等

2 対象商品

本県産の農林水産物及びその加工品。対象とする加工品の最終的な判断については、審査会において認められたものとする。

3 補助対象

海外見本市出展、渡航、試験輸出、広告・宣伝等に要する経費。

4 助成の内容

補助率：事業経費の 2 分の 1 以内

補助金の上限：原則 100 万円

5 応募方法

4 月上旬頃に県ホームページで公開される実施要領等に基づき、事業実施計画書を提出。

6 提出期限

5 月上旬(予定)

7 選定方法

事業実施計画書受付後、県が設置する委員会により選考を行い、補助金交付対象者を選定。

8 問合せ

千葉県農林水産部流通販売課

販売・輸出促進室

TEL:043-223-3086

<http://www.pref.chiba.lg.jp/index.html>

「世界らん展日本大賞 2015」で最優秀賞に輝く！！

千葉県洋らん生産者組合

25 周年の節目を迎えた「世界らん展日本大賞 2015」が、2 月 14 日から 22 日まで、東京ドームで開催されました。

本組合では、本県産の洋らんの魅力を PR するため、毎年、ディスプレイ部門オープンクラスに出展してきました。

今年は、布施展示委員長を中心に、数年ぶりに「木^{ほく}を活かした作品を出展したところ、全 67 点の中から、栄えある「最優秀賞」に選ばれました。

期間中、多くの来場者が千葉の洋らんの魅力に感動し、当組合の展示の前で記念撮影する姿が見られました。



出展作品「蘭の谷 (ORCHID VALLEY)」

2015 日本フラワー&ガーデンショウの開催

今年で 25 周年を迎える花とガーデニングの総合展示会「フラワー&ガーデンショウ」が開催されます。2015 年のシンボルフラワーは百合。切花や鉢植えなどが多数展示される他、最新の花、最先端の資材、最旬の情報やアイデア、家族全員で楽しめる体験型イベントが勢ぞろいです。

千葉県コーナーでは、県内の植木や花きを生産する団体等が出展します。

記

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 1 会 期：平成 27 年 4 月 10 日(金)~12 日 (日) | 2 会 場：幕張メッセ国際展示場 9 番ホール |
| 3 開場時間：10：00~17：00 (最終日は 16：00) | 4 入 場 料：一般 700 円 (中学生以下は無料) |
| 5 主 催：公益社団法人日本家庭園芸普及協会 | 6 後 援：農林水産省、国土交通省他 |
| 7 特別協力：千葉県、千葉市他 | |

【問い合わせ先】 県生産振興課園芸振興室 電話：043-223-2871